



山五小

おひさま通信

ホームページ <http://www.dai5-e.ymgt.ed.jp>

平成28年度
11月号①

山形市立第五小学校
平成28年11月25日
校長 三森 聡

一人一人が**主人公**！ **感動**につなげる**表現力**！
「おひさまフェスタ 2016」 11/12 体育館



歌を通して一人一人の心がつながったよ！ **全校大合唱「ふるさと」**

11月12日（土）、「おひさまフェスタ」を開催しました。学年ごと、学習で学んできたことを子ども達のアイデアでつなぎながら声や体で表現しました。今年度、子ども達の声が体育館中にしっかりと響き渡るようにするため、移動式ミニスタンドによる集音マイクや音量調整器を体育館の音響設備に組み入れ、子ども達が思い切り体育館で表現できる環境としました。でも、「練習していくうちに、生声でも観客に十分に届けられるよ。」と集音マイクを必要としない学年もありました。

体育館が満席になるほど、多くの方々に足を運んでいただきまして大変感謝申し上げます。

オープニング 吹奏楽部
「となりのトトロ」
「HAPPY」
迫力あるスタンドブレイと6年生のアドリブソロがとてもしっかりよかったです。



1年 劇「くじらぐも」
子ども達が、空に浮かぶ「くじらぐも」に乗って、楽しんで冒険している姿を表現しました。



2年 ファンタジー劇
「スイミー」
すいすい泳ぎ回ったり、マグロを退治したりと、楽しい海の世界を歌や踊りで表現しました。



4年 劇・ダンス
「レインボー・オリンピック」
スポーツの由来やオリンピックのエピソードを楽しく表現しました。



5年「5年1組物語」
 日々の仲間との協力や関わりを振り返りながら、日々成長してきた自分達の姿をオリジナルストーリーとして表現しました。



6年「あおぞら 花笠物語」
 花笠踊りに挑戦する中、花笠音頭の歌詞や祭りの歴史を調べました。その紹介をしながら、花笠踊りを華やかに踊りました。



3年「チャレンジ豆腐づくり」
 豆腐づくりに挑戦するものの失敗続きでしたが、最後には美味しい豆腐が完成。その過程を表現しました。



3・4年合同合唱「風になる」
 言葉が途切れないようにフレーズを意識し、柔らかい発声で二部合唱をしました。



3年生「チャレンジ豆腐づくり」の学習の足跡 ○○○○

■「失敗しても諦めずに学び続けることの大切さ」を伝える ■

3年生から始まる総合学習。「どんなことに取り組み、どんな自分達になりたいのか。」を考え、子ども達は、みんなで力を合わせ、仲間や家族・地域の方々に喜んでもらえるようなお菓子をつくることに取り組みました。

さっそくお菓子について調べ、試しにつくってみました。五小オリジナルのお菓子にするための工夫がまだ足りません。そこで思いついたのが、ヘルシーで美味しい豆腐やおからを使ってみようということでした。

子ども達は、お菓子をつくる前に、まず豆腐が作れるようにならなくては、という新たな課題に意欲を持ちました。ここから豆腐づくりへの挑戦が始まりました。

—1回目の挑戦!—

資料を集め、大豆を水に浸しつくってみました。固まりませんでした。

※にがりの量が足りなかったのです。

子ども達にとってなじみのない材料なので不安は募るばかり…。それなら地元の仁藤豆腐屋さんに直接聞きに行き教えてもらおうと子ども達は考えました。

快く迎えてくださった社長さんは、質問に答えてくださるだけでなく、豆腐づくりを体験させてくださいました。にがりの量もわかり、固まる様子を目の当たりにした子ども達は自信を持ちました。



豆腐工場の見学

—2回目の挑戦!—

「できたぞ!」と思いましたが、つくった豆腐は、どこか焦げ臭かった…。豆乳を焦がしてしまったのです。

—3回目の挑戦!—

「3回目こそは、美味しい豆腐をつくりたい!」という子ども達の強い思いに応え社長さんが学校に来てくださいました。便利な方法として、ビニール袋に入れて湯煎することを教わり、豆腐づくりに挑戦する子ども達を優しく見守ってくださいました。

「できた!」「やったぞ!」と目を輝かしながら試食する子ども達の声。美味しい豆腐ができ、みんな大満足でした。



社長さんにご指導いただく



大成功して試食する子ども達

今回、失敗を繰り返しながらも、最後にはとっても美味しい豆腐ができたことで自信を得ました。この過程で、子ども達は、たくさん悩みや疑問を持ちながらも、図鑑で調べたり地域の達人に聞いたりしながら再挑戦してきました。

今回の「おひさまフェスタ」では、この体験を生かし、「失敗しても諦めずに学び続けることの大切さ」をテーマとし、豆腐に関するクイズを入れたり、にがり（※海水から塩をつくる時の残った液体）から発想した音楽「海の声」の合奏を入れたりしながら表現しました。